

## 第2回目の目標 (教科書p.4.8.9)

- (1) 単位ベクトルの構成法
- (2) 位置ベクトル (内分点)

を理解する。

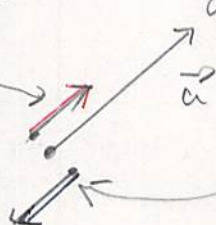
# 単位ベクトルの作り方

$\vec{a}$  も  $\vec{b}$  : ベクトル に対して

①  $\frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a}$  は  $\vec{a}$  と同じ向きの単位ベクトル

②  $-\frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a}$  は  $\vec{a}$  と逆向きの単位ベクトル

同じ向き  
で大きさ1



逆向きで大きさ1

例3  $\vec{a}$  : ベクトル,  $|\vec{a}| = 5$  のとき、次を求めよう。

(1)  $\vec{a}$  と平行な単位ベクトル

解

$|\vec{a}|$  と平行な単位ベクトル: ①  $\vec{a}$  と同じ向きの単位ベクトル  
②  $\vec{a}$  と逆向きの単位ベクトル

①  $\frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a} = \frac{1}{5} \vec{a}$

②  $-\frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a} = -\frac{1}{5} \vec{a}$  //

(2)  $\vec{a}$  と逆向きで大きさが7のベクトル

解 (求めるベクトル) = ( $\vec{a}$  と逆向きの単位ベクトルの大きさを7倍したベクトル) ②

$= 7 \cdot \left( -\frac{1}{|\vec{a}|} \vec{a} \right)$  ②

$= 7 \left( -\frac{1}{5} \vec{a} \right)$

$= -\frac{7}{5} \vec{a}$  //



# 定義 (位置ベクトル)

平面や空間に 1 点  $O$  を定めて、点  $O$  を始点とし、各点  $P$  を終点とするベクトル  $\vec{OP}$  を、点  $O$  に関する点  $P$  の位置ベクトル といい、 $\vec{p} = \vec{OP}$  と表す。  
 $\vec{p}$  の小文字

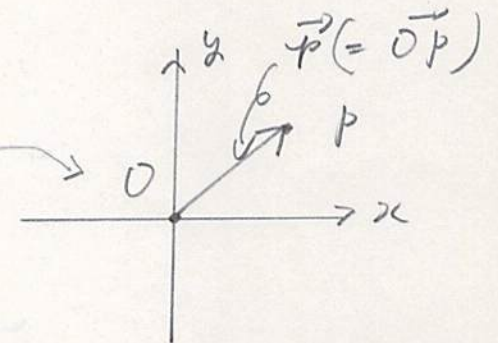


本テキストでは、位置ベクトルは点  $O$  に関するものとする。

## 点 $O$ のとり方

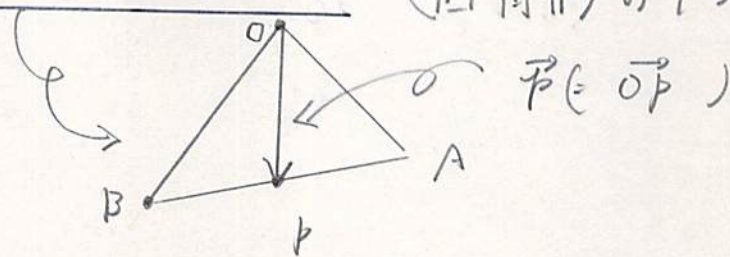
- 座標を入れる場合.

点  $O$  は 原点 とする.



- 座標を入れない場合

点  $O$  は 指定の点 とする. (例えば、三角形や四角形の 1 つの頂点)

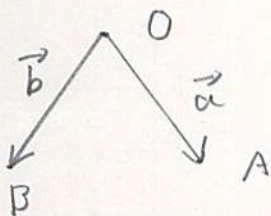


# 定理 (2点を結ぶベクトル)

$A, B$ : 平面又は空間内の2点

( $O$ は平面又は空間内の任意の1点として固定する)

$\vec{a}, \vec{b}$ :  $A, B$ の位置ベクトル



$$\Rightarrow \boxed{\vec{BA} = \vec{OA} - \vec{OB} = \vec{a} - \vec{b}}.$$

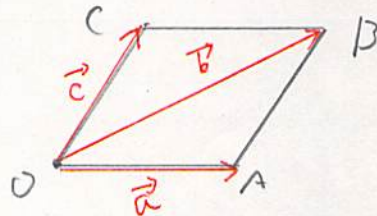
(終点)      (始点)

$$\begin{aligned} \vec{BA} &= \text{Diagram: Triangle OAB with vector BA from B to A} \\ &= \text{Diagram: Triangle OAB with vector BO from B to O and vector OA from O to A} \\ &= \vec{BO} + \vec{OA} \\ &= -\vec{b} + \vec{a} \\ &\quad \vec{BO} = -\vec{OB} = -\vec{b} \end{aligned}$$

例4 平行四辺形  $OACB$  について,  $A, B, C$  の ( $O$ に関する) 位置ベクトルを  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  とするとき, 次のベクトルを  $\vec{a}, \vec{b}$  を用いて表してみよう.

(1)  $\vec{b}$

解答  $\vec{b} = \vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AB}$   
 $= \vec{OA} + \vec{OC}$   
 $= \vec{a} + \vec{c} //$



(2)  $\vec{AC}$

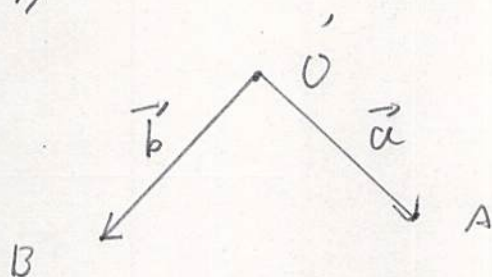
解答  $\vec{AC} = \vec{OC} - \vec{OA}$   
 $= \vec{c} - \vec{a} //$



# 定理 (内分点の位置ベクトル)

•  $A, B$ : 平面や空間内の2点,

•  $\begin{cases} \vec{a}: A \text{ の位置ベクトル,} \\ \vec{b}: B \text{ " } \end{cases}$



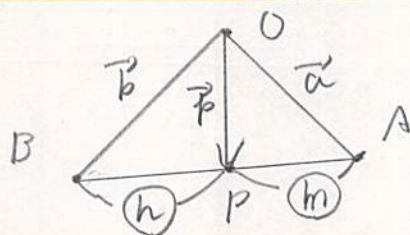
( $O$  は空間内の任意の1点とし, それは固定されている)  
とある.

$\Rightarrow$   $P$ : 線分  $AB$  を  $m:n$  に内分する点

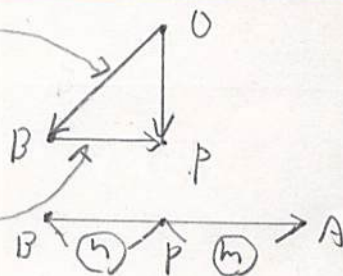
( $m, n \in \mathbb{N}$  ( $m, n$  は自然数とする))

の位置ベクトル  $\vec{p} (= \vec{OP})$  は

$$\vec{p} = \frac{n\vec{a} + m\vec{b}}{m+n} = \frac{n}{m+n}\vec{a} + \frac{m}{m+n}\vec{b} \quad \text{--- (1)}$$

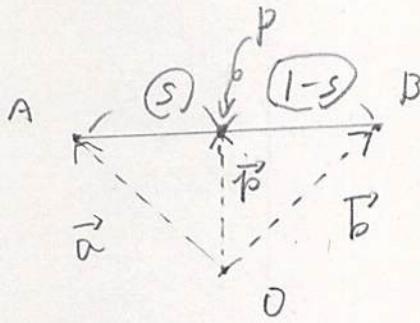


$$\begin{aligned} \therefore \vec{OP} &= \vec{OB} + \frac{n}{m+n} \vec{BA} \\ &= \vec{b} + \frac{n}{m+n} (\vec{a} - \vec{b}) \\ &= \frac{n}{m+n} \vec{a} + \frac{m}{m+n} \vec{b} \quad // \end{aligned}$$



注意

線分  $AB$  上の任意の点  $P$  は、 $0 \leq s \leq 1$  となる数  $s$  を用いて、 $AB$  を  $s : (1-s)$  に内分する点である。点  $P$  の位置ベクトル  $\vec{p}$  は



$$\vec{OP} = \frac{(1-s)\vec{OA} + s\vec{OB}}{s + (1-s)}$$

$$\vec{p} = (1-s)\vec{a} + s\vec{b}$$

となる。

注意 (中点の位置ベクトル)

線分  $AB$  の中点  $M$  は  $A, B$  の  $1:1$  の内分点、

$$\Rightarrow \vec{m} = \frac{1\vec{a} + 1\vec{b}}{1+1} \quad (\vec{OM} = \frac{\vec{OA} + \vec{OB}}{2})$$

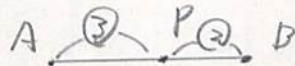
① で  $m = n = 1$  とした。

例5

2点  $A, B$  の位置ベクトルを  $\vec{a}, \vec{b}$  とするとき、

線分  $AB$  を次のように内分する点  $P$  の位置ベクトル  $\vec{p}$  を求めよう。

(1)  $3:2$



解

$$\begin{aligned} \vec{p} &= \frac{2\vec{a} + 3\vec{b}}{3+2} = \frac{2}{5}\vec{a} + \frac{3}{5}\vec{b} \\ &= \frac{2\vec{a} + 3\vec{b}}{5} \end{aligned}$$